

B A S T L



**CIAO !**

**取扱い説明書**

(株)アンブレラカンパニー

**[www.umbrella-company.jp](http://www.umbrella-company.jp)**

\* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

# CIAO!

## quad line output & headphones amp

Ciao! は4チャンネルの高品位なバランス接続可能なライン出カインターフェースに、ヘッドホン出力をプラスした、コンパクトなユーロラック・モジュールです。レコーディングやライブで役に立つクリップ・インジケータを搭載し、ヘッドホン出力は2つのステレオ・チャンネル（4チャンネルは2つのステレオ・チャンネル、AとBにグループされています）を素早く切り替えてモニタリング可能です。また、ジャム・セッション時にも、2つの独立したサウンドを作り上げ、それをスイッチでファイナルミックス用に切り替えて使用することも可能にします。5HPの省スペースに、モジュラーシenseで便利に利用できるアウトプットの機能を全て搭載しています。

### Features

- 4系用のライン出力（2×ステレオA or B）
- 各ステレオ・チャンネルのボリューム・コントロール
- 2系統のバランス出力（L/Rch）
- 1系統のステレオ出力（ヘッドホン出力としても使用が可能）
- ヘッドホン出力
- ヘッドホンに送られるソースを選択可能（A or B）
- チャンネルAをスイッチ切替でチャンネルBにミックス可能
- 内部でモノ→ステレオ変換（Lchのみに入力すると自動でL/Rchの両方に信号がフィードされる）
- ラインレベルのクリップ・インジケータを各チャンネルに装備

### Technical details

- 5HP
- 10ピン・パワー・コネクタ（付属）
- 55mm(奥行)
- 消費電流： +12: 80mA, -12: 80mA

## **《重要な注意事項》**

本モジュールをユーロラックの電源フレームラックに組み込む場合には、必ず電源ケーブルを電源フレームラックから抜いた状態で行ってください！また接続には必ず付属のリボンケーブルをご使用ください。接続する際はコネクタを接続する向きを絶対に間違えないように、細心の注意を払ってください。必ず複数回確認し、間違いないことをお確かめいただいてから接続するようにしてください。

**赤いケーブルがモジュール、バスボード共に-12V側です。**

以下を再度ご確認ください

- 1、ラックがユーロラック規格の標準的なものか？
- 2、+12V、-12Vレールのバスボード規格か？
- 3、電源レールは最大の消費電流を超えていないか？

BASTL INSTRUMENTSの製品にはPTCヒューズとダイオードによる保護回路を搭載していますが、間違った接続や使用によるダメージはユーザーの責任となりますので、よくご確認の上でご利用ください。また電源が入った状態で回路や電源バスを手で触れることは、たいへん危険ですので、くれぐれもご注意ください。

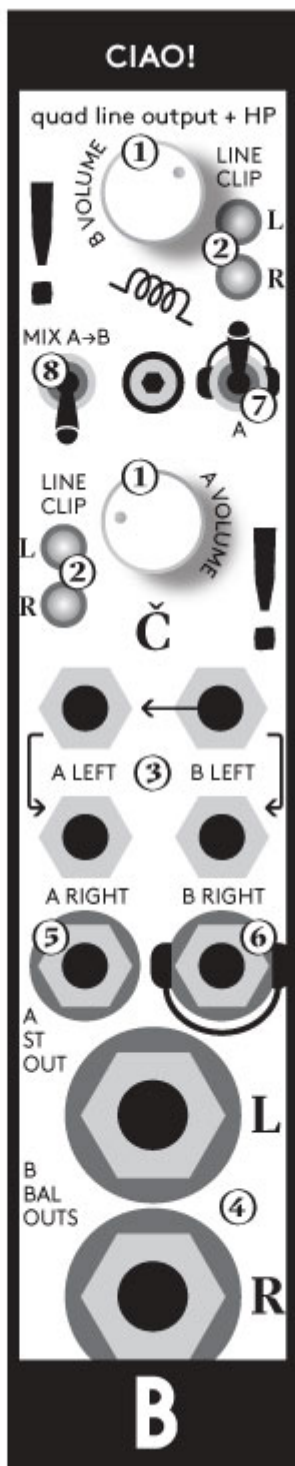


## Instruction

\*以下の操作説明は、各イラスト図（フロントパネル、基板）の番号に対応しています。

**B**

QUAD LINE OUTPUT & HEADPHONES AMP



**Ciao!**

- ① 両方の A と B チャンネルには、それぞれ独立したボリュームノブを装備しています
  
- ② 各 4 チャンネルには、それぞれにクリップインジケーターが装備され、クリップする手前で点灯して知らせます（点灯が瞬時につく場合はまだクリップの手前なので、実際の信号はまだクリップしていません）
  
- ③ 各チャンネルには個別のモノラル入力があります。B チャンネルの右チャンネルに接続がない場合には、左チャンネルの信号が右チャンネルにもフィードされます。A チャンネルも同様です。これにより、モノラルの信号を入力した際も、ヘッドホンの両チャンネルからサウンドをモニタリングすることが可能となり大変に便利です。B チャンネルに信号を接続すれば自動的に信号が割り込むため、それだけでステレオソースの出力に切り替わります。  
  
また B セクションの左チャンネルは、A チャンネルの左チャンネルの入力にも反映されます。よって、もし B チャンネルの左チャンネルのみに信号を入力した場合には、すべてのチャンネルに信号がフィードされるという事になります。
  
- ④ チャンネル B はバランス対応のフォン出力（左右チャンネル）を装備しています。
  
- ⑤ チャンネル A にはミニ・ステレオ・ジャックが装備されています。この出力はラインレベルですが、ヘッドホンをドライブさせる事も可能な設計です。
  
- ⑥ ミニ・ステレオ・ジャックのヘッドホン出力です。
  
- ⑦ このスイッチを切り替え、ヘッドホンにチャンネル A、またはチャンネル B を送るかを決定できます。
  
- ⑧ このスイッチでは、チャンネル A の左右チャンネルを、チャンネル B の左右チャンネルにミックスさせることができます。例えば、リアルタイムのライブパフォーマンス時に、チャンネル A をヘッドホンでモニタリングしながら新たなサウンドに調整し、完成した時点で、スイッチを切り替え、ファイナルミックスにミックスインするなど、便利に利用できます。

## 詳細なインストラクションと使用例

**BASTL INSTRUMENTS CIAO!**は、2系統のステレオソースをフレキシブルにミックスできる「ヘッドホンアンプ」と「ステレオ対応のバランス・ラインアウト」を持つアウトプット専用モジュールです。たった 5HP の省スペースに音質、機能ともに優れたパフォーマンスが詰め込まれています。

高品位な**バランス対応のライン出力(標準フォン)**を装備し、PA システムにノイズレスな信号を送ることができます。また、フレキシブルな機能をもったヘッドホンアンプにより、**2系統のソースを個別、またはミックスしてヘッドホンでモニター**可能です。

チャンネル B のボリュームは上のノブで、チャンネル A は下のノブで調整できます。

メインのライン出力(バランス対応) は、チャンネル B の信号をスピーカーや PA システムに送ることができます。MIX A→B のトグルスイッチが下側の設定では、常にチャンネル B だけを出力していますが、スイッチを上側にするとチャンネル A の信号をミックスして出力できます。

ヘッドホンは基本的にヘッドホンマークの印字されているミニステレオ・ジャックに接続します。このヘッドホン出力は A/B チャンネルをトグルスイッチで切り替えてモニターできるため、現在ライン出力に送られているメインミックス (B チャンネル) の音と、これからミックスインしたいチャンネル A のサウンドをヘッドホンで個別にモニタリングできます。つまり、チャンネル A のサウンドを調整&確認してから、Mix A→B スwitchを上側に切り替えてメインミックスに混ぜることができます。リアルタイムのパフォーマンスに最適で便利な機能です。

ちなみにこのヘッドホンアウトはレベルをノブで適正に調整すれば、ステレオのライン出力としても利用することができます。



チャンネル A、B 共に入力はステレオ対応なので、L/R 両チャンネルの入力が用意されていますが、モノラルで使用したい場合には、L チャンネル側だけに入力すれば、自動的に R チャンネルにも音声ルーティングされるので、とても使い勝手が良いです。ステレオ・スピーカーへの接続は L/R そのままで、ステレオで使いたい場合は各 A/B チャンネルの L/R 入力をパッチング、モノラルの場合は L 側だけにパッチングすれば常に両側のスピーカーから音が聞こえるので、ミキサーを使用するより使い勝手が良いです。

また、チャンネル B の L チャンネルだけに信号を入力すれば、自動的に A チャンネルにもルーティングされるので、CIAO! の全部の出力系統から分配出力が可能でたいへん便利です。

A ST OUT と表記されたミニジャックは、チャンネル A 専用のステレオ出力です。

A ST OUT も、メインのヘッドホン出力（ステレオ・ミニジャック）も、ノブで適切なレベルに設定すれば、共にステレオのライン出力として利用が可能です。

各出力の使い分けは以下を参考にしてください。

● **標準フォンの L/R ライン出力を使う場合**

チャンネル B を常に出力して、MIX A→B スイッチでチャンネル A の信号を、チャンネル B にミックスできます。

● **メインのヘッドホン出力をライン出力として使う場合**

A/B スイッチでチャンネル A と B を切り替えて出力できます。MIX A→B スイッチで A+B のミックス出力が得られます。

● **A ST OUT を使う場合**

A ST OUT はチャンネル A の信号を出力します。

ただしチャンネル B の【L チャンネルだけ】に信号を入力した場合には、自動的に B チャンネルのモノラル信号がルーティングされます。

